

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年11月16日
【四半期会計期間】	第35期第2四半期 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
【会社名】	ディービーエックス株式会社
【英訳名】	DVx Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 柴崎 浩
【本店の所在の場所】	東京都練馬区小竹町一丁目16番1号 (同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております)
【電話番号】	該当事項はありません
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません
【最寄りの連絡場所】	東京都豊島区高田二丁目17番22号
【電話番号】	03-5985-6832(直通)
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員 宮本 聡
【縦覧に供する場所】	ディービーエックス株式会社 本社 (東京都豊島区高田二丁目17番22号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第2四半期 累計期間	第35期 第2四半期 累計期間	第34期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (千円)	22,121,271	19,310,077	44,653,770
経常利益 (千円)	453,877	244,425	1,123,608
四半期(当期)純利益 (千円)	314,032	162,880	792,028
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	344,457	344,457	344,457
発行済株式総数 (株)	11,280,000	11,280,000	11,280,000
純資産額 (千円)	7,084,958	7,508,999	7,566,549
総資産額 (千円)	20,137,778	20,095,850	20,367,187
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	29.39	15.84	75.56
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	15.83	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	24.00
自己資本比率 (%)	35.2	37.3	37.1
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	684,001	1,231,499	1,045,392
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	164,925	97,380	362,299
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	719,125	265,992	746,822
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	5,095,844	6,098,426	5,232,708

回次	第34期 第2四半期 会計期間	第35期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	19.66	16.92

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成していませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益については、持分法を適用する関連会社が存在しないため記載していません。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、第34期第2四半期累計期間及び第34期は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大につきましては、2020年7月に当社従業員に感染者が発生しましたが、それによる営業所の閉鎖には至っておりません。引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大には十分な注意を払い、その影響が最小限となるよう取り組んでまいります。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況が続いておりますが、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、持ち直しの動きが続くことが期待されるものの、国内外の感染症の動向やその影響などから、先行き不透明な状況となっております。

医療機器業界におきましても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が大きな影響を及ぼし、外出自粛要請に伴い患者の医療機関への来院数が減少したこと、医療機関が待機的な治療など緊急性が低い治療について可能な限り延期したことなどから、症例数が減少しました。2020年6月以降、症例数は回復傾向となっておりますが、完全な回復には至っておらず、引き続き症例数減少の影響を受けております。

このような情勢のもと、当社では、社員の感染リスクを軽減するためのあらゆる対策を講じ、医療の安全、安心のために安定して商品を提供し続けることを使命とし企業活動を行ってまいりました。

これらの結果、当第2四半期の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

#### 財政状態

当第2四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ271,337千円減少し、20,095,850千円となりました。

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ213,788千円減少し、12,586,850千円となりました。

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ57,549千円減少し、7,508,999千円となりました。

#### 経営成績

当第2四半期累計期間の経営成績は売上高19,310,077千円（前年同期比12.7%減）、営業利益245,281千円（前年同期比45.1%減）、経常利益244,425千円（前年同期比46.1%減）、四半期純利益162,880千円（前年同期比48.1%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

不整脈事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、医療機関において待機的な治療など緊急性が低い治療については可能な限り延期したことや患者の受診自粛などにより症例数が減少したことから、当第2四半期累計期間の売上高は16,554,111千円（前年同期比14.4%減）、セグメント利益は1,751,974千円（前年同期比17.6%減）となりました。

虚血事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により医療機関における症例数が減少したことに加え、感染拡大防止のため総代理店として取り扱っている商品については、医療機関への訪問など営業活動を自粛したことから、当第2四半期累計期間の売上高は1,565,263千円（前年同期比17.8%減）、セグメント利益は340,570千円（前年同期比7.9%減）となりました。

その他は、外科、脳外科関連商品等が好調に推移したことから、当第2四半期累計期間の売上高は1,190,702千円（前年同期比37.2%増）、セグメント利益は153,008千円（前年同期比19.7%増）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による資金の獲得1,231,499千円、投資活動による資金の支出97,380千円、財務活動による資金の支出265,992千円等により、前事業年度末と比較して865,718千円増加し、6,098,426千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税引前四半期純利益243,797千円に加え、売上債権の減少645,826千円、たな卸資産の減少260,832千円等の増加要因があった一方、法人税等の支払77,696千円、仕入債務の減少144,767千円等の減少要因があったことから、1,231,499千円の資金の獲得(前年同期は684,001千円の獲得)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得154,380千円等があったことから、97,380千円の資金の支出(前年同期は164,925千円の支出)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

配当金の支払244,073千円等があったことから、265,992千円の資金の支出(前年同期は719,125千円の支出)となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における研究開発活動の金額は、6,930千円であります。

なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(7) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第2四半期累計期間において、当社の経営成績に重要な影響を与える要因に変更はありません。

(8) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べ209,562千円減少し、18,622,119千円となりました。これは主に、現金及び預金は865,718千円増加しましたが、受取手形及び売掛金が711,247千円、商品が306,072千円減少したことによるものであります。固定資産は、前事業年度末に比べ61,775千円減少し、1,473,730千円となりました。これは主に、営業用デモ機、営業用レンタル機の取得により有形固定資産は14,801千円増加しましたが、差入保証金が51,004千円減少したことによるものであります。

これらの結果、当第2四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末と比べ271,337千円減少し、20,095,850千円となりました。

(負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末に比べ225,662千円減少し、12,148,296千円となりました。これは主に、買掛金が144,767千円、1年内返済予定の長期借入金が20,241千円減少したことによるものであります。固定負債は、前事業年度末に比べ11,874千円増加し、438,553千円となりました。これは主に、退職給付引当金が21,752千円増加したことによるものであります。

これらの結果、当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末と比べ213,788千円減少し、12,586,850千円となりました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ57,549千円減少し、7,508,999千円となりました。これは主に、四半期純利益により162,880千円増加したものの、剰余金の配当により246,656千円減少したことによるものであります。

これらの結果、自己資本比率は37.3%(前事業年度末は37.1%)となりました。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	44,000,000
計	44,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月16日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,280,000	11,280,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	11,280,000	11,280,000		

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	11,280,000	-	344,457	-	314,730

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社MSS	東京都新宿区富久町36番18号	3,404,600	33.05
光通信株式会社	東京都豊島区西池袋一丁目4番10号	662,500	6.43
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	661,135	6.42
若林 稲美	東京都三鷹市	322,000	3.13
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	278,900	2.71
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティ)	275,200	2.67
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	180,000	1.75
宮川 元	愛知県安城市	156,000	1.51
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	153,500	1.49
野村信託銀行株式会社(信託口)	東京都千代田区大手町二丁目2番2号	146,000	1.42
計	-	6,239,835	60.57

- (注) 1 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は278,900株であります。なお、それらの内訳は、投資信託設定分180,300株、年金信託設定分7,700株、その他信託設定分90,900株となっております。
- 2 株式会社日本カストディ銀行(信託口)の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は179,100株であります。なお、それらの内訳は、投資信託設定分103,000株、年金信託設定分10,100株、その他信託設定分66,000株となっております。
- 3 株式会社日本カストディ銀行(信託口5)の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は153,500株であります。なお、それらの内訳は、その他信託設定分153,500株となっております。
- 4 野村信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は146,000株株式会社であります。なお、それらの内訳は、投資信託設定分146,000株となっております。



(6) 【議決権の状況】  
 【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 977,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,300,700	103,007	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 2,000	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	11,280,000	-	-
総株主の議決権	-	103,007	-

(注) 単元未満株式数には、当社所有の自己株式44株が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ディービーエックス株式会社	東京都練馬区 小竹町一丁目16番1号	977,300	-	977,300	8.66
計	-	977,300	-	977,300	8.66

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期財務諸表についてEY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3 四半期連結財務諸表について

当社には子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,232,708	6,098,426
受取手形及び売掛金	9,932,252	9,221,005
電子記録債権	1,558,159	1,623,581
商品	1,793,332	1,487,259
その他	316,628	192,446
貸倒引当金	1,400	600
流動資産合計	18,831,681	18,622,119
固定資産		
有形固定資産	915,695	930,497
無形固定資産	24,381	12,879
投資その他の資産		
差入保証金	253,502	202,497
繰延税金資産	300,900	296,900
その他	43,242	33,172
貸倒引当金	2,216	2,216
投資その他の資産合計	595,428	530,353
固定資産合計	1,535,505	1,473,730
資産合計	20,367,187	20,095,850
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	11,588,271	11,443,503
1年内返済予定の長期借入金	29,527	9,286
未払法人税等	99,000	97,000
賞与引当金	246,630	249,000
売上値引引当金	-	67,393
その他	410,530	282,113
流動負債合計	12,373,959	12,148,296
固定負債		
長期借入金	1,678	-
退職給付引当金	354,195	375,948
役員退職慰労引当金	68,577	-
その他	2,228	62,605
固定負債合計	426,678	438,553
負債合計	12,800,638	12,586,850
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	344,457	344,457
資本剰余金	314,730	314,730
利益剰余金	7,958,713	7,870,889
自己株式	1,056,197	1,029,556
株主資本合計	7,561,704	7,500,521
新株予約権	4,845	8,478
純資産合計	7,566,549	7,508,999
負債純資産合計	20,367,187	20,095,850

## (2)【四半期損益計算書】

## 【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	22,121,271	19,310,077
売上原価	19,496,975	17,064,523
売上総利益	2,624,295	2,245,554
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	100	800
給料及び手当	739,983	773,679
賞与引当金繰入額	260,939	249,000
役員退職慰労引当金繰入額	3,716	2,042
退職給付費用	29,885	32,164
その他	1,143,023	944,185
販売費及び一般管理費合計	2,177,648	2,000,272
営業利益	446,647	245,281
営業外収益		
受取利息	213	81
受取保険金	7,368	-
為替差益	1,115	-
その他	878	1,434
営業外収益合計	9,575	1,516
営業外費用		
支払利息	129	39
為替差損	-	2,332
貸倒引当金繰入額	2,216	-
営業外費用合計	2,345	2,372
経常利益	453,877	244,425
特別利益		
固定資産売却益	648	-
投資有価証券売却益	959	-
特別利益合計	1,607	-
特別損失		
固定資産除却損	1,455	628
特別損失合計	1,455	628
税引前四半期純利益	454,030	243,797
法人税、住民税及び事業税	158,007	76,916
法人税等調整額	18,010	4,000
法人税等合計	139,997	80,916
四半期純利益	314,032	162,880

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	454,030	243,797
減価償却費	124,919	153,199
株式報酬費用	1,227	3,633
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,316	800
賞与引当金の増減額(は減少)	38,585	2,369
退職給付引当金の増減額(は減少)	13,453	21,752
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	60,554	68,577
売上値引引当金の増減額(は減少)	68,281	67,393
受取利息及び受取配当金	235	85
支払利息	129	39
為替差損益(は益)	2,285	2,408
投資有価証券売却損益(は益)	959	-
有形固定資産売却損益(は益)	648	-
固定資産除却損	1,455	628
売上債権の増減額(は増加)	1,030,238	645,826
たな卸資産の増減額(は増加)	688,698	260,832
仕入債務の増減額(は減少)	2,065,456	144,767
未払消費税等の増減額(は減少)	12,289	6,118
その他	12,552	115,406
小計	965,962	1,309,175
利息及び配当金の受取額	200	50
利息の支払額	121	30
法人税等の支払額	282,038	77,696
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>684,001</b>	<b>1,231,499</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	166,659	154,380
無形固定資産の取得による支出	4,833	-
投資有価証券の売却による収入	997	-
差入保証金の差入による支出	2,547	51,302
差入保証金の回収による収入	2,116	102,307
貸付金の回収による収入	6,000	6,000
その他	-	5
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>164,925</b>	<b>97,380</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	28,310	21,919
自己株式の取得による支出	431,750	-
配当金の支払額	259,065	244,073
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>719,125</b>	<b>265,992</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,285	2,408
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	202,334	865,718
現金及び現金同等物の期首残高	5,298,179	5,232,708
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,095,844	6,098,426

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)「新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて」に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(四半期貸借対照表関係)

1 受取手形裏書譲渡高

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	462,447千円	276,713千円

2 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年9月30日)
当座貸越極度額の総額	200,000千円	2,200,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	200,000	2,200,000

(四半期損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
現金及び預金勘定	5,095,844千円	6,098,426千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-千円	-千円
現金及び現金同等物	5,095,844千円	6,098,426千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月15日 取締役会	普通株式	259,857	24	2019年3月31日	2019年6月5日	利益剰余金

2 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2019年8月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式550,000株の取得を行いました。この結果、当第2四半期累計期間において自己株式が431,750千円増加し、当第2四半期会計期間末において自己株式が1,056,175千円となっております。

当第2四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月15日 取締役会	普通株式	246,656	24	2020年3月31日	2020年6月3日	利益剰余金

(金融商品関係)

金融商品の四半期貸借対照表計上額その他の金額が、前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計 (注)2
	不整脈事業	虚血事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,349,916	1,903,482	21,253,399	867,871	22,121,271
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	19,349,916	1,903,482	21,253,399	867,871	22,121,271
セグメント利益	2,126,619	369,854	2,496,474	127,821	2,624,295

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、脳外科事業及び消化器事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の合計額は四半期損益計算書の売上総利益と一致しております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

特記すべき重要な事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計 (注)2
	不整脈事業	虚血事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	16,554,111	1,565,263	18,119,374	1,190,702	19,310,077
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	16,554,111	1,565,263	18,119,374	1,190,702	19,310,077
セグメント利益	1,751,974	340,570	2,092,545	153,008	2,245,554

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、脳外科事業及び消化器事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の合計額は四半期損益計算書の売上総利益と一致しております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

特記すべき重要な事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	29円39銭	15円84銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	314,032	162,880
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	314,032	162,880
普通株式の期中平均株式数(株)	10,686,122	10,285,927
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-	15円83銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	3,094
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	2019年7月16日開催の取締役会決議による第6回新株予約権 新株予約権の数 1,551個 (普通株式 155,100株)	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、前第2四半期累計期間は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月16日

ディービーエックス株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 矢崎 弘直

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 飯田 昌泰

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているディービーエックス株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの第35期事業年度の第2四半期会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、ディービーエックス株式会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合

は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。